

氏名（本籍）	もりした きょうすけ 森下 恭介（静岡県）
学位の種類	博士（芸術）
学位記番号	甲第 127 号
学位授与年月日	平成 29 年 3 月 23 日
学位授与の要件	広島市立大学大学院学則第 36 条第 2 項及び学位規程第 3 条第 2 項の規定による
学位論文題目	南蛮屏風における南蛮船の図像と西洋帆船の差異
論文審査委員	主 査 教 授 藁 谷 実 副 査 准教授 城 市 真理子 副 査 教 授 関 村 誠

## 論文内容の要旨

### <序章>

16世紀から17世紀に西洋人との交易の様子を描いた南蛮屏風には南蛮人が乗船している南蛮船が描き込まれている。その特異な形態を持つ帆船は屏風の中でも非常に目を引くモチーフであるが、これまで南蛮船に焦点を当てた研究は行われてこなかった。しかし、南蛮船をよく観察していくと当時実際に使用されていた帆船の特徴や細部などをほぼ正確に描いているのである。本研究は南蛮屏風がどのような絵画で、どのような目的で制作されたのかについて述べたい。そして次に帆船と南蛮船の特徴を述べ、両者を比較してそれぞれの共通点を見つけていく。それに合わせて当時日本に輸入されていた世界地図や銅版画とも比較して南蛮船の描写はどのようなものかを探っていきたい。そしてこれらの情報を総括していきながら、南蛮屏風の中でもこれまで重要視されなかった南蛮船の正確性や絵画的意図を考察していくものである。

### <第一章 南蛮屏風の分類>

#### [第一節.南蛮屏風の図様と分類]

##### ① A類・・・中国と日本の情景、初期の制作



・「南蛮船・唐船図屏風」（九州国立博物館所蔵）

② B類・・・想像上の異国と日本の情景、南蛮船の形態が実物に最も近い



・「南蛮屏風（内膳本）」（神戸市立博物館所蔵）

③ C類・・・日本のみの情景、現存作例が最も多い



・「南蛮船駿河湾来航図屏風」（九州国立博物館所蔵）

## 【第二節.南蛮屏風が描かれた時代背景】

- ・南蛮船との接触について  
西洋人と彼らが多く来航してきた九州地方や主要都市（京都、大阪など）との関係性を考える。
- ・実際に南蛮船を目にしたという大きな事象について  
秀吉の九州行きや朝鮮出兵や諸大名が見聞きした南蛮船に関係した記録をまとめる。

### <第二章 16世紀から17世紀の帆船について>

- ・西洋帆船の分類と特徴・・・当時実際に使用されていた西洋帆船の「カラック型」と「ガレオン型」についての解説。

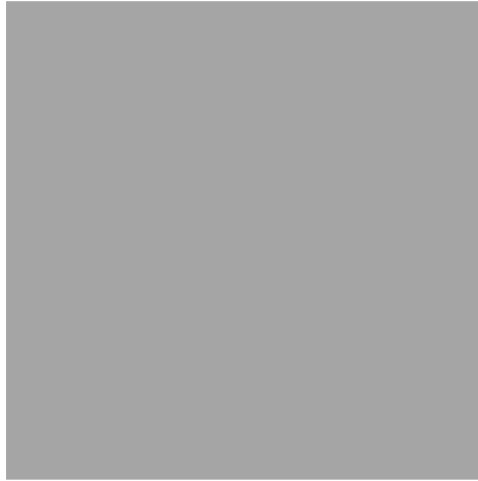
### <第三章 南蛮屏風の帆船>

#### 【第一節.図像の形態と分類について】

- ・南蛮船の分類  
A~J、B/C/Eの派生タイプを含めた13タイプに分類。それぞれの特徴をまとめる。

#### 【第二節.南蛮屏風と実在する帆船との比較について】

- ・南蛮船と西洋帆船との比較・・・形態や装備品などの細部を比較し、類似点を検証する。



・「南蛮屏風（内膳本）」（神戸市立博物館所蔵）部分 ・「ゴールデン・ハインド号」（複製船）

#### < 第四章 銅版画と世界地図について >

- ・世界地図と南蛮船・・・西洋で発行された世界地図に描かれている帆船と南蛮船を比較する。（メテルスの世界地図に描かれた帆船と内膳本の南蛮船の類似性と世界地図の図像について）
- ・銅版画と世界地図・・・ブリューゲルの制作した銅版画に描かれている帆船が世界地図にも描かれており、輸入されたその地図が南蛮船の図像の参考資料にされた可能性について考察する。

#### < 第五章 南蛮船における描写と表現について >

- ・南蛮船にみる描写の正確性について  
三角帆・・・西洋帆船の発展において重要な三角帆が描かれていない理由について考察する。  
船体側面の船室・・・西洋帆船には備わっていない船室だが、日本で建造された朱印船や中国のジャンク船によく似た装飾が確認できる。  
→南蛮船の図像は複数の国の帆船を参考にしていると推測される。
- ・船絵馬や船魂信仰と宝船について  
南蛮屏風の制作意図と日本に元々ある風習や信仰が宝船信仰へと移行していった可能性がある。

#### < 結論 >

- ・南蛮屏風を制作するために使用された参考資料は大きく分けて二種類に分類できる。
    - ①歴史的資料
    - ②絵画資料
  - ・南蛮屏風の制作目的（南蛮船の絵画的意図）  
前期：為政者が自己のアイデンティティを主張するため（異国モチーフの一部）  
後期：商人の商売繁盛や航海安全の祈願（依頼主にとって重要なモチーフ）
- 南蛮船の写実性から、実際の西洋帆船を絵画として描くことで為政者の異国趣味という意味に加えて、帆船の様相を記録しようという意図も感じられる。しかし、南蛮屏風の意図の変化と禁教政策による資料の入手困難によって写実性が薄まり、デフォルメが進んでいった。また安全祈願で制作

された南蛮屏風が後の船絵馬奉納や宝船信仰へと繋がっていく。

#### 画像出典

- ・「南蛮船・唐船図屏風」（九州国立博物館所蔵）

『東風西声 九州国立博物館紀要 第3号』 編集・発行 九州国立博物館 平成19年10月15日 原色  
図版2

- ・「南蛮屏風（内膳本）」（神戸市立博物館所蔵）

『南蛮美術セレクション-神戸市立博物館-』

編集 神戸市立博物館 発行 財団法人 神戸市体育協会 1998年10月1日 P9-12

- ・「南蛮船駿河湾来航図屏風」（九州国立博物館所蔵）

『東風西声 九州国立博物館紀要 第3号』 編集・発行 九州国立博物館 平成19年10月15日 原色  
図版4

- ・「南蛮屏風（内膳本）」（神戸市立博物館所蔵）部分

『日本の美術 第135号 南蛮屏風』 編集者 坂本 満

監修 文化庁 東京国立博物館 京都国立博物館 奈良国立博物館 昭和52年8月15日 至文堂 P1

2

- ・「ゴールデン・ハインド号」（復刻船）

『人間は何をつくってきたか～交通博物館の世界～③ SHIP 船』

編集者 NHK 昭和55年7月1日発行 日本放送出版協会 図版 P29

## 論文審査の結果の要旨

本論文は、桃山時代から江戸時代前期にかけて出現した画題である南蛮屏風に見られる南蛮船の図様について考察したものである。これらの南蛮屏風では、狩野派などの絵師たちが日本の伝統的な画法によって制作し、屏風画中に主要モチーフとして大きく西洋帆船を描くのが通例である。しかし、それらが西洋的な写実画法で描かれたものではないため、どれほど現実味のある図様であるかどうかという点は、従来、考察の対象とはなっていなかった。

本研究では、西洋の銅版画等から判る西洋帆船の図様と比較検討することにより、実は、南蛮屏風では船舶の構造に関して相当にリアリティのある図様が含まれていたことを論証している。南蛮屏風についての美術史学の先行研究をもとに、90点余りの南蛮屏風の作例から、西洋帆船の図様を独自に11種類に分類し、それら一つ一つについて、同時期のヨーロッパの銅版画中に見られる帆船との異同を検討した労作である。対外交易史や船舶の先行研究を参照し、説得力のある論文である。修士論文から展開させ、更に、南蛮屏風そのものの制作の意味についても考察を深めたことは、非常に高く評価でき、美術史研究上でも斬新な視点での優れた研究論文となっている。